

Title	スピリチュアリティの現在とその意味実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：2009 聖学院大学総合研究所スピリチュアル・ケア研究室主催講演会）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-2 : 34-37
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2305
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

2009 聖学院大学総合研究所
 スピリチュアル・ケア研究室主催講演会
 スピリチュアリティの現在とその意味
 実施結果 -アンケート集計結果の概要-

現代人の心を読み解くキーワードにスピリチュアリティがある。めまぐるしく変化する現代社会は、人々の心に深い傷を残しているカウンセリングや心理療法に助けを求める人が急増している。魂の深みに視点をあわせると、そこにスピリチュアリティの問題が浮かび上がってくる。スピリチュアリティの視点から現代社会を見つめ分析する第一人者、東京大学教授 島蘭進先生から、魂の癒しを求めるわたしたちへのメッセージをお聞きください。

日時 2009年5月22日(金) 14:00～16:00
 場所 新都心ビジネス交流プラザ4階 会議室A

【プログラム】

司会者挨拶・講師紹介

窪寺俊之（聖学院大学大学院教授）

講演

「スピリチュアリティの現在とその意味」

島蘭 進（東京大学大学院人文社会系研究科・
 文学部宗教学科教授）

質疑応答

閉会挨拶

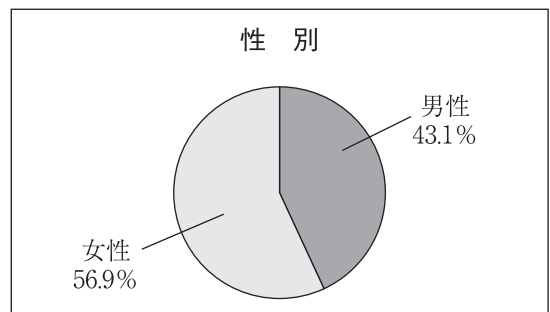
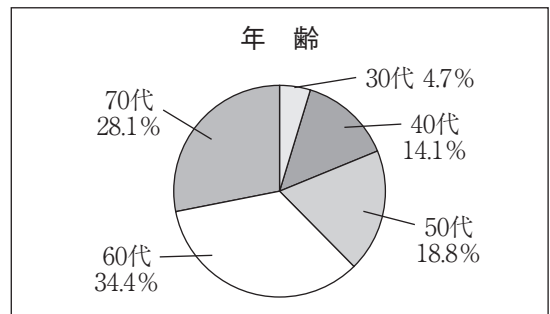
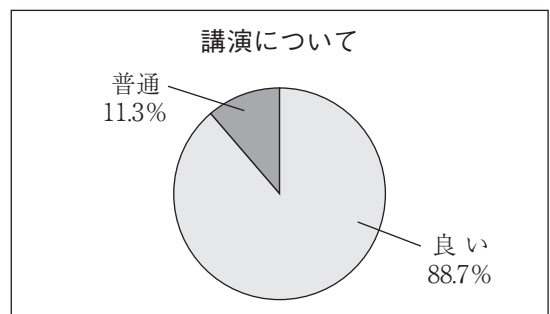
平山正実（聖学院大学大学院教授）

閉会

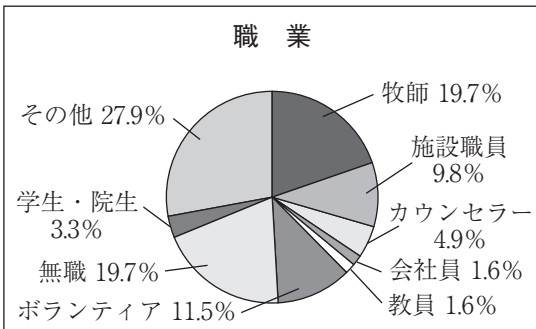
〔後援〕キリスト新聞社・クリスチャン新聞

【結果の概要】

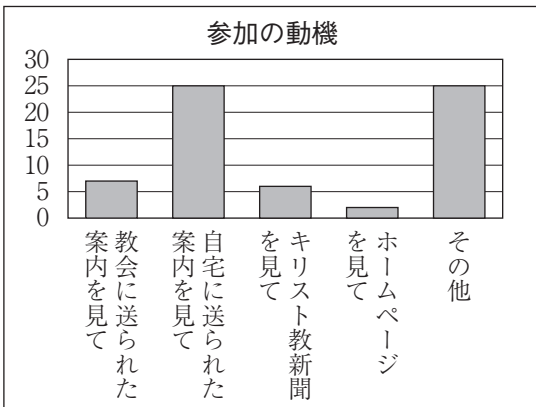
- ・参加者は136名。内、アンケート回答者は66名。
- ・講演について「良い」という意見が89%と高い評価を得た。
- ・自由意見として、「スピリチュアリティを理解する良い機会となった」「有意義だった」など。



*参加者の年齢は、60代が最も多く34%、次に70代28%、50代18%となった。
性別は、女性56%、男性43%となった。



*職業別では、「牧師」「無職」が最も多く、ともに19%、次に「ボランティア」11%だった。「その他」の内容として、「薬剤師」「病院職員」「主婦」「ヘルパー」「看護師」「病院スタッフ」など。



*参加の動機は、「自宅に送られた案内を見て」が最も多かった。「その他」の内容は、「職場に送られた案内を見て」「学校で知って」「保険所内の掲示」「友人の紹介」など。

自由意見

- ・今、現在「スピリチュアル」という言葉が非常に広く使われるようになり、必ずしもその用い方が正しいとは言えないものもあるのではないのでしょうか。言葉ばかりが一人歩きをしているような。語源的に、歴史的に「スピリチュアル」とはキリスト教世界=宗教と切っても切れないものだと思いますが、『日本』という中で、正しく「スピリチュアル」という語が用いられ、それに対するケアをしていくにはどのように「スピリチュアル」という語をとらえ、伝えるか、定義をするかは大事なことだと思います。
- ・スピリチュアルなものを神々はハイパーパワーを切り離して人とのつながりのレベルにのみ求めることについてもう少しお話いただきたいかった。「おくりびと」の映画も死者とおくり人との関係が丁寧に描かれ、心情的には深く感じましたが、死そのもの、人生の意味、死後の世界といったものにはあまり触れられておらず、それなしにでも人は心動かされるということ、これはあまりに日本的なものか、または人とはそのようなものなのか、西欧的、キリスト教的なものに影響を受けすぎた私の疑問です。
- ・物質文化の中で精神文化を広げ、人間の魂を清めていく必要性の中、無神思想があまりにも若



講師 島蘭進教授(左) 司会 窪寺俊之教授(右)

者の中に多く、それを伝えていくべき親、祖父母が教え伝えていけない現実を感じます。スピリチュアルは地球そのものの姿で、人間は地球に生かされている感謝を学ばせていく教育も小さなときから必要なのでは……その時期にきている気がします。

- ・自死について関心があります。11年連続で3万人を超えたということで、何とかしなければと考えております。宗教はその防波堤になる可能性があるのではないかと、もっと積極的に取り組んでほしいと思います。自死者は死にたいのではなく、実は生きたいと願っているのではないかと感じるからです。
- ・スピリチュアリティという言葉はよく聞いている言葉ではあるが、その意味、特に現代に用いられている意味の広さに教えられた。キリスト教の信仰者の立場から伝統的に理解していたものとしての先入観を一応捨てて、これからは幅広いものとして理解していく必要を教えられた。
- ・スピリチュアリティに関して、多面的に考えるヒントをいただきました。とても興味深いものでした。本を求めて読んでみようと思ってます。クリスチャンですが、周りの若い人と話をすると、何か「不思議なもの」を強く求めているのを感じます。生きていくことの中で求める「不思議」——それをキリスト教に求めることができます。なぜ、不思議を求めるのか？いろいろと思うところもあります。
- ・各個人のもつスピリチュアリティというものがあると先生がおっしゃっていましたが、私も同感です。キリスト者であってもそれをすぐに前面に出すことなく、周りの人と歩む気持ちを持ちたいと思います。
- ・牧会の現場よりスピリチュアルな現代人の宣教のアプローチについての接点など教えていただけました。感謝です。
牧会の現場で多彩なニーズとともにケアを必要とする方々が大量にいられています。次回スピリ

チュアルケアについて教えていただきたいと思っています。

- ・友人と語り合うときに特定の宗教は持っていないが、信仰心はそれぞれが持っているということで共感する。何かに頼るということはある。ぎりぎりのところに立った体験は持っていないのでわからないが、何かには頼るだろう。仲間と想像する。
- ・日頃関心のあり、考えているテーマとの関係性が本日のお話で整理できたと思った。社会のさまざまな課題を積極的に学ぶ意志をもって行動することが大切だと思った。
- ・キリスト者として、現代日本の社会に生きていて、日本独特の風土からくる考え方、生き方、見方の矛盾に直面する。特にキリスト教で言われている霊性がいかに今の日本人の心に必要であるかと思う。講師のキリスト教の霊性がみえてこなくて残念でした。
- ・トランスパーソナルな、いのちへの畏敬の念をもって私の仕事で向き合う対象に接するようになって、誰にでもあるスピリットの存在のものが、かけがえのないものであることに気づいていただくことで、老いて痛み、人とのつながりも失って、ただ嘆き早く死にたいと心閉ざしていた人が表情を取り戻し、生まれた大切さを思い出し、美しいものに感動し、涙されつつ喜ん



定員を上回る参加者で会場はいっぱいになった

- で逝かれる例も多く見られ、スピリチュアルケアの重要さをますます深めている今、先生のお話、たいへんわかりやすく、力んでいた肩の力が抜け、自然体に戻れました。新しい風のようにふっと深みへ吹いて元気をいただきました。
- ・スピリチュアリティのおかれている現代の立場がわかりよかったです。クリスチャンの私としては聖書の神様にある心の平和ということを変更して感謝するとともにそのことを深く考えていきたいと思いました。ありがとうございました。
 - ・スピリチュアリティと日本の社会の関係を理解する機会になりました。また障害者との関わり、視点については考えさせられました。これからも考え続けたいと思います。日頃わからない問題を整理していくヒントをたくさんいただきました。また島菌先生のご著書にいつも学んでおります。ありがとうございました。
 - ・ありがとうございます。無学ですが、貧しくても、こういう学びができること。希望がもてる気がします。明日から仕事を楽しくやっていける気がします。
 - ・今の人間は生きすぎ（長命すぎ）と思っています。そのために老老で生きていくことになりました。悲しいです。
 - ・時代の流れを話して、講演者の本心は、考えはどこにあるのか、はっきりつかめなかった。
 - ・「支えを求めること……スピリチュアリティ」ではないかということが心に響きました。
 - ・スピリチュアリティの意味がより明確になり、有意義でした。
 - ・現代人の孤独のケアというのも大事になってくるのだと思いました。
 - ・難しいテーマをわかりやすく講演していただいた。
 - ・ありがとうございました。会場の空調が寒かったです。
 - ・お世話になりました。ありがとうございました。

・ありがとうございました。

聖学院大学総合研究所 Newsletter
Vol.19-2, 2009

2009年11月30日発行

発行人 大木 英夫

発行所 聖学院大学総合研究所

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL : 048-725-5524 FAX : 048-781-0421

e-mail : research@seigakuin-univ.ac.jp

Homepage : <http://www.seigakuin-univ.ac.jp>
